

5. 日野市らしい幼児教育、公立幼稚園のあり方

検討委員会では、これまで公立幼稚園は私立幼稚園の補完的な役割に立ち、量的な視点から市立（公立）幼稚園の適正配置について検討を重ねてきた。しかしこれからの公立幼稚園は、子育てニーズが多様化する中で、これまで以上に私立幼稚園とともに子どもを支え合いながら、さらに「量としての補完的役割」から転換して、「良質な幼児教育の推進」が一層求められる。

これは「3（5）公立と私立それぞれに求められるニーズ」で述べたとおり、幼児人口が減少していく中で、就学前施設として両者が対峙することなく、それぞれがこれまで培ってきた幼児教育やノウハウ、人材などを最大限活かして幼児教育全体を検討していくことがあらためて必要と判断したものとなる。

以下、日野市らしい幼児教育のあり方についてその方向性やその具体を示し、今後の幼児教育を質の高い、そしてより実践的な学びが園児に行き届くことを期待して、既成の概念にとらわれることなくその一案を提案したい。

ア) 幼稚園、小学校とともにその立地が恵まれている近接地域においては、学校統廃合や改築・大規模改修の時点で幼稚園と小学校との統合（空き教室の活用）を検討する。

イ) エールから地理的に離れた園舎をエールのサテライトとして活用する。

ウ) 小学校との接続のしやすさを活かして、幼小一貫校を設置し8年程度で子どもの成長を支える仕組みをあらたに構築する。

エ) 幼稚園に「複式学級」をあらたに配置して3歳児の受け入れを行い、異学年の交流を深める。

オ) あさひがおか幼稚園を発展的に解消し、幼保連携型子ども園に移行する。

カ) 幼小連携の具体として、園舎の一部を改修し普通教室を設置するなど、園児と児童が机を並べともに学べる環境を整備する。

キ) 小一プロブレム解消のため、事前にスタートカリキュラムなど幼稚園と小学校が共有の上、幼児教育に精通する幼稚園教諭が子どもの教育活動を小学校でサポートする。

ク) 良質な幼児教育の推進に欠かせない、幼稚園教諭の人材の発掘や育成、その成長を支える指導体制やアドバイザー機能としてのしくみを構築する。

ケ) センターの機能という言葉にとらわれることなく、幼児教育を検討するための組織やシステムを設置する。 など

日野市の幼児教育の更なる発展にあたっては、設置主体（公私）や施設類型（幼稚園、保育園、認定子ども園）にとらわれず、幼児教育・保育の質の向上を総合的に推進するためのセンター的な機能を公立の幼稚園には果たしてもらいたい。

なお、今後の幼児教育や公立幼稚園のあり方については、この検討委員会においても議論を重ねてきたが、より議論を深めるためには、別途会議体などを構成の上、日野市らしい幼児教育や公立幼稚園のあり方の検討を推進されたい。